

【参考資料】震災直後の神戸大学海事科学部ポンド内救援状況の記録

～神戸商船大学対策本部業務記録・深江丸作業記録より抜粋～

1995 (平成 7 年)

1/17 神戸商船大学内 係留ポンドの深江丸・舟艇に被害が無いことを確認
1430 1号発電機を始動、船内給電開始

1/18 係留ポンド、防波堤周辺を測深、深江丸を防波堤外にシフト
事務官が深江丸に常駐し、船舶電話にて文部省との連絡を開始
(電源、電話回線の不足により、深江丸を連絡基地とする)
夜間当直者を3名体制とする(発電機運転の維持、緊急時の対応)

1/19 訪船者のためにタラップの保護策補強、サーチライト(終夜点灯)の準備

1/20 「むこ丸」にて無償提供されたガソリンを海上輸送
深江丸を臨時宿泊施設とする、ベッド数52

1/23 他の練習船の着岸支援、陸上施設の整理
・ 航海訓練所「銀河丸」本学ポンド沖着 救援物資陸揚げ
銀河丸・北斗丸・海王丸実習生による炊出し活動を開始
・ 広島大学「豊汐丸」救援隊 医療・炊出し・救援物資の海上輸送
・ 神戸大学理学部「おのころ」ポンド内に係留し救援活動を開始

1/26 「豊汐丸」より深江丸へ給水(1.6ton)

1/27 「豊汐丸」より深江丸へ給水(7.3ton) 高圧耐油ホースを石油会社より借用
・ 東京商船大学「汐路丸」神戸港沖 神戸大学へ薬品海上輸送、本学へ救援活動
・ 広島商船高専「広島丸」第2次支援隊、救援物資の海上輸送
・ 大島商船高専「大島丸」神戸市内にて救援活動

1/29 深江丸避難住民のために船内シャワー室を開放
(約150名、3グループに分けて使用)

他の練習船からの輸送舟艇のためにポンド入口にブイ設置

1/31 深江丸をポンド内へシフト、陸上燃料油タンクから給油、再び防波堤外へ

1999 (平成 11 年)

深江丸より船外へ FEED BACK 給電が可能となる